長崎県議会議員 なかむら いちぞう

2022年（令和4年） vol.04

中村一三 県政だより

皆様の声を県政に!!

ごあいさつ

早いもので今年も残すところ約１カ月となりました。皆様方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

市・県・国のパイプ役として皆様の声を届けています。９月議会での一般質問の内容等、報告致します。令和５年度が皆様にとって良い年でありますようご祈念致します。

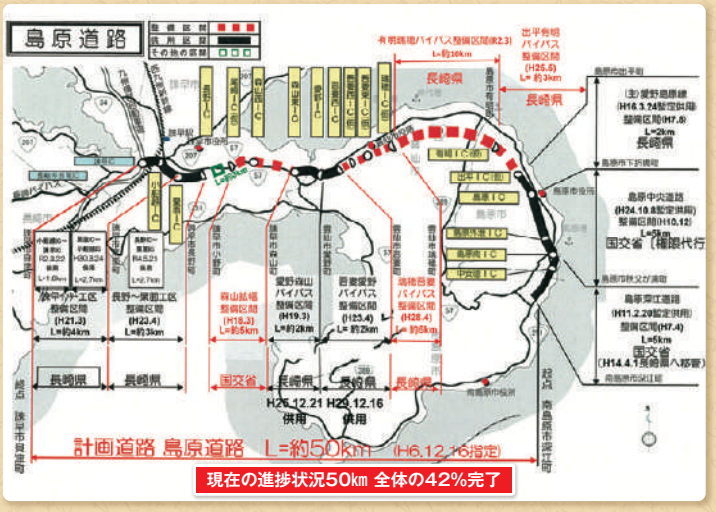
これからも「市民の声を県政へ」。声が届くように全力で南島原発展の為に期待に応えられるように努めてまいります。

【経　歴】
平成９年　南有馬町議会議員当選45歳（3期）
平成18年　南島原市議会議員当選（4期）　初代監査委員就任
平成22年　南島原市議会副議長就任
平成26年　南島原市議会議長就任
平和元年　長崎県議会議員初当選
平和３年　観光生活建設委員会委員長

【現　在】
●観光･IR･新幹線対策特別委員会委員長 ●長崎県議会総務委員会委員
●有明海自動車航送船組合議員 ●長崎県日中友好議員連盟監査
●長崎県森林･林業･林産業活性化促進議員連盟幹事
●自由民主党政調会副会長

【趣　味】
詩吟朗詠錦城流師範・謡曲宝生流教授嘱託

加藤竜祥 衆議院議員へ島原半島の高規格道路について要望



令和４年 9月定例議会 一般質問

① 原油価格・物価高騰による対策について

◉中小企業対策について

【質問】長引くコロナ感染症により国民生活や社会経済への影響が続いている。加えてロシアのウクライナ侵攻などを受け原油をはじめとするエネルギーの原材料価格等が高騰し国民生活や社会経済活動に追い打ちをかけている。そこで県の制度資金である緊急支援資金の活用件数と融資額を伺いたい。

【答弁】県の制度融資である緊急資金繰り支援資金の保証承諾状況は、令和4年8月末現在において、延べ件数が1万1,663件、保証承諾実績額が約1,760億6,700万円となっております。

◉今度の支援策について

【質問】コロナ関係の融資を受けている事業者からは、無利子の取扱いは借入から3年間の限定の制度である。それが終了し融資の返済が開始されるタイミングと急激な円安進行等の影響を受けて原油価格や物価の高騰が続き、歯止めがかからない状態とが重なることが非常に苦しいという切実な声があります。県としては、どのような支援を行っており、今後どのように考えているのか伺いた

【答弁】県の制度融資に原油・原材料価格の高騰に対応する新たな区分を追加するとともに、本定例会においても、借換えなどの資金需要の増加等に対応するための融資枠の拡大に必要な関係予算を提案している。あわせて、事業者がコロナ禍を踏まえた新分野への展開による経営多角化など、事業の再構築を図るための先進的な取組に対しても、支援措置を講じてまいります。

早め早めの対策で今々を乗り切る

② 農業・水産行政について

◉南島原市における農業振興について

1. 農地の基盤整備について

【質問】南島原市で進められている農地の基盤整備事業実施地区の進捗状況と今後の新規地区の予定について伺いたい。

【答弁】南島原市における農地の基盤整備事業は、4地区、208ヘクタールの整備を実施しているところであり、令和3年度末の進捗状況については、事業費ベースで、空池原地区が91%、見岳地区が82%、馬場地区が9%、シマミ地区が2%となっております。新規地区の予定としましては、有家中部地区、有馬干拓地区の事業推進を図っているところであり、今後とも、市や関係団体と連携し、早期の事業着手に向けて、地域の合意形成を進めてまいります。

2. スマート農業の推進について

【質問】南島原市では、昨年3月、南島原市スマート農業協議会を設立し、農業後継者の定着、生産現場における省力化や効率化の実現に向け、活動を行っている。スマート農業の推進に当たっては、南島原市と積極的に連携し、取り組んでいただきたいと考えます。県では、市において、どのようにスマート農業を推進しているのか伺いたい。

【答弁】県では、「長崎県スマート農業推進方針」を策定し、各振興局に相談窓口を設置するとともに、技術の実証や農家への導入支援等を行っているところです。県も、南島原市スマート農業推進協議会へ参画し、みかんのドローン道場の実演会のほか、いちごやとまとの環境制御技術の実証、研修会等を行っており、いちご農家では、10アール当たりの収量が全国平均と比較して1.8倍となる事例も出てきております。今後も関係団体と一体となって支援してまいります。

3. 有機農業の推進について

【質問】南島原市では、市や地元の生産者による南島原オーガニック協議会を立ち上げ、化学肥料や農薬を使わない有機農業で市を活性化しようと、生産、加工、流通、消費の課題解決に向けた先導的な取組を行っている。持続可能な農業、付加価値の高い農業を目指す南島原市の取組について、どのように把握し、今後の課題と取組について考えているのか伺いたい。

【答弁】有機農業の取組拡大に向けては、生産面では、収量、品質の安定化と省力化、販売面では、コストに見合った価格で販売できる販路の確保、開拓が課題と考えいる。こうした課題の解消に向けて、県も、南島原オーガニック協議会へ参画し、南島原市が計画している有機農業圃場の団地化、地域の飲食店や旅館での有機農産物の利用推進、学校給食への試験的導入等の取組を進めることで、市や関係団体と共に、今後の有機農業の拡大につなげてまいります。

4. 果樹振興対策について

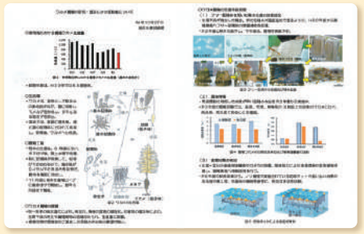
【質問】南島原市は、かんきつ類、落葉果樹などの多くの品目を栽培する産地ですが、山間地で狭い農地が多く、果樹生産者の高齢化は顕著であり、栽培面積、担い手の減少が進んでいる。南島原市では、南島原果樹フロンティア協議会を設立し、果樹生産性の人材育成や産地のＰＲ等の活動がはじまったところであるが、県では、このような条件不利地域における果樹の振興に向けて、どのような対策を考えているのか伺いたい。

【答弁】南島原市に多い中山間の条件不利地域における果樹の振興と担い手の確保のためには、省力化が可能となるような樹園地の条件整備が重要であると考えている。そのため、園内作業道の整備、優良品種への新改植等の推進と併せて、ドローンを活用した防除作業など、スマート農業の導入も検討していく必要があると考えております。あわせて、後継者のいない農家の樹園地を計画的に新規就農者に継承する仕組みづくりを検討するなど担い手の確保を図ることで、南島原市の果樹の振興に取り組んでまいります。

5. 漁業者の所得向上対策について

【質問】漁業を魅力ある産業とするためには、漁業者の所得を向上させることが重要と考えますが、県の取組状況を伺いたい。

【答弁】平成27年度から、系統団体や中小企業診断士と連携した支援体制を構築し、個々の漁業経営の内容に踏み込んだ経営指導を行い、令和3年度までに692件の経営計画を策定し、新たな漁法の導入による生産性の向上や最先端の漁労機器の整備による操業の効率化、コスト削減などの取組が進められ、コロナ禍で大変厳しい状況の中ではありますが、収支の確認ができた方のうち、約5割が所得の向上につながっております。　今後は、優良な経営計画に基づく取組を広く若い世代に波及させながら、ＩＣＴ技術を活用したスマート水産業や6次産業化、海漁の導入を推進することで、漁業者のさらなる所得向上を図ってまいります。



③ 南島原市の諸課題について

◉史跡原城跡の地域振興への活用について

【質問】原城跡については、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つとして、平成30年7月に世界文化遺産に登録。世界遺産に登録された際、原城跡を観光・物産振興にも活用することで、急激に進む人口減少や過疎化から地元を守るための起爆剤として大きな期待を寄せていたところである。登録後間もなくコロナ禍の影響などから、団体旅行・一般の観光客も登録直後と比べ、相当減少しているのが現状である。このような中、南島原市においては、世界遺産の価値を発信するとともに、観光案内や物産販売の機能、市民の憩いの場ともなる原城跡世界遺産センターを令和8年度にオープンしようと計画し、南島原市議会において、基本設計の業務を3,200万円で委託し、承認をされている。　原城跡の価値を理解していただけるよう、整備基本計画も策定していると聞いている。これらの整備は、原城跡のみならず、県内のほかの構成資産にも足を運んでいただくきっかけになり「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の理解促進や県全体の観光振興にもつながっていると考えている。
そこで、お尋ねをいたしますが、こうした地域の宝である世界遺産原城跡を活かした振興策については、まずは南島原市で取り組む

【答弁】南島原市が計画しております原城跡世界遺産センターは、その価値や魅力などを発信する拠点として、周辺の様々な資源を活用しながら地域振興にも貢献するものと期待しております。引き続き保存と活用の両面から助言を行うなど、積極的に協力してまいります。10月下旬には、南島原市におきまして、県、市、民間事業者の共催で、長崎歴史文化博物館と有馬キリシタン遺産記念館が連携して講演会やスタディーツアーを実施する予定です。今後とも、南島原市をはじめ、関係市町と連携しながら、文化資源の魅力増進や周遊促進の取組を積極的に進めてまいります。

観光・IR・新幹線対策特別委員会視察

南有馬町「原城の聖マリア観音」建設に市民の皆様のご協力をお願いします。　【寄付金募集中!】

南有馬町「原城の聖マリア観音」

◉大雨による南有馬町夏吉地区の災害復旧について

【質問】昨年8月13日の大雨により、幅60メートル、延長125メートルにも及ぶ大規模な地滑りが発生し、地区内を通る幅員5メートルの市道が100メートルにわたり被災して、現在も通行止めになっていることから、地域住民の方々は、大きく迂回を余儀なくされ、支障を来している状況となっている。県においては、地滑り災害復旧工事に迅速に取り組んでいただき、地滑り対策工事は進められると伺っているが、災害発生から1年が経過しており、地域住民のためにも、市道を含めた一日も早い復旧が必要である。市道の復旧は、当然、南島原市が実施するものであるが、県の災害復旧工事の進捗を見て、市道の復旧工事へ着手すると聞いたが、県の地滑り災害復旧工事の進捗と今後の予定を伺いたい。

【答弁】夏吉地区の災害復旧工事については、地元の皆様のご理解とご協力の下、計画どおりに進捗しているところです。現在、再び地滑りが起きないように、被災した市道を含む地滑り箇所の上部の土砂の除去を優先して実施しており、本年9月末の完了を予定しております。その後、県において、工事箇所の土砂移動の有無などを2月末まで継続して観測し、斜面の安定が確認された後、南島原市が市道の復旧手続に入る予定となっております。なお、当地区全体の地滑り対策工事は令和5年度中の完了を目指しており、今後も、早期復旧に向けて、市と連携して取り組んでまいります。

◉みずなし本陣の撤退による道の駅の今後の方向性と休暇村「雲仙」閉館による今後の存続について

【質問】平成11年に道の駅としてオープンした当初は、初年度には64万人、最も多かった平成14年度は89万人を数えるなど、多くの来場者でにぎわっていたが、その後、減少に転じ、令和元年度には約30万人、そしてコロナ禍の令和3年度には10万人まで落ち込み、営業困難な状況により、閉館したところである。
道の駅として魅力向上が島原半島並びに南島原市の地域振興には欠かせないものと考えており、撤退したみずなし本陣の事業承継については民間ベースでの話であることは承知している。道の駅としての活性化に向け、県として、また南島原市とどのように協議して検討されていくのか伺いたい。

【答弁】県が所有する土石流被災家屋保存公園は、雲仙岳噴火災害の教訓を伝承していく観点から、道の駅の機能の一つとして、今後も保存、活用することとしております。そのため、例えば、この保存公園や近隣の雲仙岳災害記念館、ジオパークといった噴火災害関連施設を周遊する教育旅行の充実などにより道の駅の活性化を図ることも、地域振興につながるのではないかと考えております。今後、このような取組を含め、道の駅の活性化に向け、記念館を含めた広域的な周遊促進策などについて、南島原市や関係者と協議を行い、地域の活性化に努めてまいりたいと考えております。

【質問】小浜、北有馬地区の玄関口でもあり、観光地の拠点でもある雲仙国立公園の諏訪の池公園においても、休暇村「雲仙」が昨年3月に閉館。広大なキャンプ場、ボート場も閉鎖されるなど、一大観光拠点として、また雲仙を訪れる観光客にとって、途中で立ち寄ることがない状況でもある。民間ベースではあるが、島原半島の周遊観光として重要な施設であると考えており、観光立県長崎として、今後の存続、方向性について、もう少し県も関与すべきと思うが、現状を見て、周辺整備と環境整備について、どのように考えているのか伺いたい。

【答弁】休暇村「雲仙」につきましては、現在、施設の譲渡説明会に参加した民間事業者との意見交換を踏まえ、本館建物やキャンプ場など、諏訪の池地区全体を対象に、利活用希望者を公募する方向で、施設を所管する環境省、雲仙市が中心となり、検討がなされております。県といたしましても、豊かな自然環境を身近に利用できる当該地区の機能が維持され、島原半島全体の周遊観光に資することは重要であると考えており、今後の関係者間の議論に加わるなど、積極的に関与をしてまいります。

◉堂崎港埋立地の取り付け道路の進捗状況と埋立地の状況について

8ヘクタールJA島原雲仙選果場完成
残りは一体的な推進を望む!!

【質問】堂崎港埋立地においては、一部を完成し、県より南島原市へ売却。その後、市よりＪＡ島原雲仙へ売却し、出荷場などの整備が進められいる。計画から30年を経て、雲仙普賢岳の噴火土石流に伴い発生した土砂の処分として、現在、133万立方メートルを搬入し、98%を埋め立てていると聞いています。市としては、人口流出の歯止めが利かない状況で、一刻も早く完成し、企業誘致したい考えであり、地域経済浮揚の切り札として、早期の完成を願っています。排土がかなり出てきているものと聞いているが、残り2%、2万立方メートルを前倒しで完成できないものか、また、県が整備を進めている国道からの取付道路の進捗状況についても、伺いたい。

【答弁】堂崎港埋立地は、雲仙普賢岳からの堆積土砂や港湾しゅんせつ土の処分地として整備された埋立地です。処分される堆積土砂などの建設発生土については、リサイクルを原則としていることから、まずは近隣の公共工事で活用したうえで、残った土を埋立地などで受け入れることとしています。一方で、整地を行うことが活用できる未竣工の区画があることから、早期に埋立ての部分竣工ができるよう取り組んでまいります。また、県が整備を進める国道からの取付部及び場内幹線部の道路については、今年度末の工事完成を予定していま

裏面へ続く➡

◉島原半島の幹線道路網の整備状況について

【質問】過疎地域における道路網の整備については、産業の振興や交流人口、関係人口の拡大に当然必要なものである。半島地域においては、高規格道路である島原道路の整備が進められており、島原市内で建設促進大会が開催されるなど、地元の期待も大きく、早期の完成を心待ちにしている。そこで、現在、半島内で県が進めている3つの工区の進捗状況と完成の見通しについて伺いたい。

【答弁】島原道路のうち、出平有明バイパスについては、全面的に工事を進めており、今年 8 月には、出平地区においてインターチェンジ工事のための農道の切替えが完了したところです。有明瑞穂バイパスについては、有明地区における年内の用地取得の着手に向けて、測量や設計を進めています。瑞穂吾妻バイパスでは、用地取得に努めながら、瑞穂地区と吾妻地区において、橋梁などの工事を進めているところです。引き続き、地域の皆様の協力を得ながら、島原道路の一日も早い完成に向けて、全力で取り組んでまいります。

【質問】島原半島南部地域においては、南島原市深江町から口之津町間のアクセス向上も重要な課題の一つである。前回の議会においては、道路整備の方向性について、関係市との意見交換を行うこと等であったが、現在の検討状況について伺いたい。

【答弁】南島原市深江町から口之津町間を含め、島原半島南部地域の道路整備については、昨年度から、地元関係市と意見交換を行いながら整備の方向性について検討を進めています。これまで 2 回の意見交換を実施しており、今年 5 月には、地域や道路を取り巻く課題について、関係市の意見を聞いたところです。引き続き、地域の意見をしっかりとお聞きしながら、将来の島原半島南部地域の道路整備の方向性について、検討を進めてまいります。

【質問】主要地方道小浜北有馬線の大亀矢代工区について、平成23年度に事業に着手され、なかなか進捗が図られていないように感じていたが、今回、ようやくトンネル工事の契約案件が本会議場に上程をされています。地元は、一日も早い開通を待ち望んでいるところであるが、現在の進捗状況と開通時期について、伺いたい。

【答弁】主要地方道小浜北有馬線の大亀矢代工区については、全面的に工事を進めており、今年度から、トンネルや橋梁上部工に着手する予定です。

【質問】地域の生活道路として利用されている山口南有馬線の井手清水地区においては、道路幅員が非常に狭く、すれ違いが困難な状況となっている。今年度から整備に着手されたが、現在の状況について、伺いたい。

【答弁】山口南有馬線の井手清水地区については、県単独事業により今年度事業化し、現在、測量や設計を実施しています。年内には地元説明会を開催したいと考えており、一日も早い完成に向けて、事業推進に努めてまいります。

再質問

堂崎港の埋立工事、あと2%ですので2万立方メートル。30年間埋め立ててきたんです。133万立方メートル、1年間で約4万立方メートル。それをあと3年間で埋め立てるというのは、いかがなものかなと考えております。南島原市は、企業誘致をしないと、人口減少が非常に著しい。早期完成をお願いしたい。

原城跡も駐車場問題が起きております。歴史記念館ができ、来年4月に世界最大規模のマリア像が完成予定です。駐車場から本丸まで約15～20分かかります。乗降をするスペース、今は全部素通りなんですよね。それで、大型バスは行かない。歩いて身体障害者、老人、子ども連れの皆さんがバッグを持って行けますか？確かに世界遺産というのは保存、整備するというのが第一の目的でありますが、地元の方々は原城跡を観光の起爆剤と考えております。その辺も前向きに検討をしていただきたいと思っております。

令和4年度10月補正予算

Ⅰ．補正予算編成の柱

1. エネルギー・食料品等の物価高騰対策に要する経費
2. 国の「全国旅行支援」予算の追加配分に伴う経費

Ⅱ．補正予算の規模

一般補正予算　89億3,100万円

◉歳入予算　全額国庫支出金うち臨時交付金　54億6,000万円

Ⅲ．補正予算の主な事業

1. エネルギー・食衣料品等の物価高騰に要する経費

［子育て世帯支援］
（1）子育て応援の店サービス提供拡大キャンペーン…　3億8,700万円
（2）県立学校空調経費の公費負担を前倒し実施……　1億3,300万円
（3）子育て世帯の県内観光旅行を支援……　4,400万円

［中小企業支援］
（1）中小事業者の省エネ設備等導入支援……　2億円

［公共交通・運輸物流支援］
（1）公共交通事業継続への支援……　7億円
（2）離島航空路線への支援……　7億1,700万円
（3）貨物運送事業継続への支援……　3億8,700万円

［医療機関、介護・障害者施設等支援］
（1）施設の電気代等の価格高騰分を支援……　15億9,800万円

［農業・水産業支援］
（1）漁業者への燃油高騰対策支援……　2億　600万円
（2）養殖業者への飼料高騰対策支援……　2億1,500万円
（3）農業肥料価格高騰対策……　4億3,400万円
（4）畜産飼料価格高騰対策……　2億7,600万円
（5）農業水利施設の電気代価格高騰分を支援……　1,100万円

［観光業支援］
（1）宿泊施設の省エネ設備等導入支援……　1億5,700万円
（2）子育て世帯の県内観光旅行を支援……　4,400万円

2. 国の「全国旅行支援」予算の追加配分に伴う経費

（1）「ながさきで心呼吸の旅キャンペーン」の増額…　34億6,700万円

古賀友一郎 参議院議員（内閣委員会委員長）と環境省の取組浮体式洋上風力発電実証の勉強会

片山さつき 参議院議員に地方創生・人口減少対策に必要な財政措置の充実について要望

稲田朋美 衆議院議員（整備新幹線等鉄道調査会会長）に西九州ルートの全線フル規格の要望

長崎県議会議員
中村一三事務所
〒859-2414 長崎県南島原市南有馬町丁170番地
TEL.0957-85-2148　FAX.0957-85-3348

陳情・要望等のご相談は中村一三事務所（TEL0957-85-2148）
又は、携帯（090-3322-8894）へお気軽にお問合せください。

中村いちぞう　検索
https://nakamura13.com/